



「平成」から「令和」へ

新しい年号が「令和」に決まり、平成で始まる最後の年度がスタートしました。来月からは「令和元年」になります。

チベット語で「れいわ」の発音は「希望」という意味だそうです。希望あふれる年になればいいと思いますが、どんな年にするのかも一人ひとりの努力ですね。

図書館でも異動があり、新しいメンバーで新年度をスタートしています。温かく見守り、ご協力いただけたらと思います。

❖エイプリルフールの日

今年の4月1日月曜日は新年度の最初の休館日で、職員の打ち合わせの日でした。今年度一年間の事務分担、実施事業の打ち合わせ、そして研修を行いました。今年度の事業はおいおいこのコラムでもお知らせしていきますが、初めて実施するものの一つが「絵本ビブリオバトル」。ビブリオバトルは書評合戦とも言われ、県主催で秋に栗盛記念図書館を会場に北鹿大会が開催されます。絵本に特化したビブリオバトルはあまり聞いたことがありません。そこで、事業をやる前に職員で体験してみました。参加申し込みは9名。チャンプ本は同点で2冊、「みちくさしようよ」と「たいせつなきみ」でした。子どものわくわく感のある本と、大人も涙する愛情物語の2冊です。ぜひ手にとって読んでいただけたらと思います。

❖あるかしら？

7日付朝日新聞で「あるかしら文庫フェア開催中」の全面広告が目を引きました。「あるかしら書店×ポプラ文庫」とあります。

ポプラ社、といえば皆さんはどんな本を思い浮かべますか？職員に聞いてみました。返ってきたのは声をそろえたように「ゾロリ」。ですよねえ。30代の人たちが子どものころには「忍たま乱太郎」、続いて「かいけつゾロリ」、そして「おしりたんてい」と続いていくように児童書のイメージが強いようですが、最近では樹木希林さん主演の映画「あん」の原作本でしょうか。

あるかしら文庫では、好評作品24点がヨシタケシンスケさんによるオリジナルカバーで出されています。すべての表紙に「あるかしら？」で終わる文があり、読みたい気持ちをかきたててくれます。「あん」は「しっかりしたテーマで深く心残る本ってあるかしら？」と表紙にあります。「先日いろいろと挫折しまして。モヤモヤしてるんで何かいいやつあるかしら？」「子どもに対する優しい気持ちを充電したい。いい本、あるかしら？」「数学キライなんだけどさ、だから逆におもしろ

い、ってやつあるかしら？」「小説ってまだ読んだことないんだけど、どんなのがあるかしら？」

文庫本ですが、本への興味を持ってもらう入口として栗盛記念図書館で準備中です。

❖図書館アンケートより

図書館の利用者アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。10代から70代まで幅広い層の方々からご回答いただき、好意的な評価をいただいた点もありましたが、図書館機能の一つである「調べる」ことへの支援（「レファレンス」といいます）が知られていないということがわかりました。また、ホームページやSNSで情報発信しているつもりでも認知されていないこともわかり、努力項目として挙げられます。

また、「図書が古い」という声は多く、限られた予算の中でがんばってはいるのですが、すべての利用者の要望に応えられないという現状がありますので、心苦しいのですがご理解いただきたいと思えます。

図書館を勉強・学習の場として活用されている方が多いことや、小さなお子さんを連れての利用が多目的室、ラウンジがあることによって利用しやすくなったなど、とてもありがたい声もありました。勉強に適したスペースは一般コーナーと、2階の資料室、参考図書室があり、多目的室とラウンジはにぎやかスペースと区分けしております。

限られた中で図書館での活動が充実していくよう職員一同努力し、多くの利用者（市民）の方々に愛される図書館を目指してまいりますので、引き続きご協力をお願いいたします。（保）